

令和 6 年度空間線量率等評価結果に係る検証委員会 第 3 回 議事録

1. 日時： 令和 6 年 12 月 24 日 (火) 15:15～17:00
2. 場所： BIZcomfort 水戸 (MYM ビル 10 階 会議室 3)
3. 議事内容

<事務局>

皆様お揃いになっておりますので、これより第 3 回検証委員会を開催いたします。今回は、県民の皆様を検証委員会で検証した結果を周知することについて、ご議論いただくことといたします。

本日は、茨城県原子力安全対策課(以下「茨城県」という。)にもご出席いただいて、ご意見等を頂戴したいと思います。また、日本原電からもご意見をいただきたいと思います。

お手元の資料をご覧ください。県民向け周知資料構成案がございます。それと県民向け資料の制作スケジュールがございます。本資料は〇〇委員と事務局とで作成した資料になります。これについて、皆様のご意見をいただきたいと思います。それでは、県民向け説明資料の構成案を事務局からご説明いたします。まず第 1 項目として、本資料の作成目的をご説明させていただきます。

県民向け周知資料は、日本原電が実施した放射性物質の拡散シミュレーションについて、その妥当性を空間線量率等評価結果に係る検証委員会が評価し、その結果を県民に向けてわかりやすく、理解できることを目的として作成するものです。

2 項目でございますが、こういった方を対象にするかが重要なところでございます。特に、ご議論いただいた拡散シミュレーションを想定し、東海第二発電所から 30 キロ圏、PAZ、UPZ の自治体の関係者、住民に理解されるようなものにするということが目的になっております。3 項目以降の詳細については、資料作成の方針を 4 つほど挙げております。4 項目につきましては、資料の構成と記載内容、(1)として資料の趣旨説明、(2)として検証委員会での検証事項、(3)として検証結果となっております。また、資料の作成スケジュール案がございます。本年度の第 4 回検証委員会が最終になりますが、まず、第 3 回の検証委員会において、資料の作成方針案を決める必要があります。第 4 回検証委員会においては、図表等を入れて、その説明を入れた資料案を叩き台として、ご議論いただくこととなります。最終的には、2 月の中旬に大まかな資料を作成し、2 月の下旬にある程度の詳細版を作り上げ、3 月には茨城県へ資料提出するという予定で進めていくことといたしております。ただ、これはあくまでも制作のためのスケジュール案でございますので、若干の変更があるかと考えております。その際には茨城県とご相談させていただきながら、各委員の意見をいただき作成していくことといたします。以上のような流れで進めていきます。

詳細は、〇〇委員からご説明していただいた後、皆様からご意見をいただくことといたします。それでは〇〇委員、よろしくお願いします。

<委員>

〇〇でございます。今お配りいたしました資料の構成案で作成させていただきたいと思います。よろしくお願いします。事務局からお話ございましたが、この訴求対象者は県民の方でございますけども、特にこのシミュレーションの対象とした 30 キロ圏内の自治体の皆様を含む住民の皆様に理解されるものにしようということでございます。去年、一昨年 of 報告書とは別物の資料で、一般向けの資料ということで考えるとご理解いただければと思っております。したがって 3 番の資料作成方針でございますが、できるだけ簡易な表現にすることが求められることだと思います。すなわち、ただ伝えるだけでなく、相手に伝わる資料、伝える側の意図が伝わる資料だということを 1 番重点

において考えるべきではないかと考えております。その簡易な表現と容易な表現ということで、一口で言ってしまうと簡単そうですけれども、この文章とか構成を、やはり十分に検討していくということが必要です。科学の説明というよりも、全体のことをわかりやすくするというこの文章作成というものを考えております。もちろんビジュアルなものにするということはわかりやすくすることの1つですが、図とかグラフを多用すればいいというものではありませんので、その図の必要な情報をできるだけ加え、それ以外のものは削除すると。不要な情報を削除した簡潔な図というものをを用いて、一目見れば言いたいことがわかるというようなものにしていきます。これにつきましては、この図のここはこういう風にやっているといいのかというところを、日本原電なども含めてご相談させていただくことになるのではないかと思います。それから、やはり専門的な用語がどうしても出てくる委員会でございますが、そういったところの対応というものは避けなければいけないと思います。どうしても使わなければいけない言葉というのは当然出てくると思います。それにつきましては、やはり用語解説というものを設けて、その理解を得るということをやっていく必要があるかと思ひます。この専門用語を、どこまで使うか、どれが使えて、これはやめた方がよいのではないかと、こう言い回した方がよいのではないかとということにつきましても、委員の皆様あるいは県の皆様とのご相談が必要であります。それから、やはり簡潔なものと、言いたいことを全部言えるわけではありませんし、場合によっては、当然相手方によっては誤解を生んでしまうようなこともあるかもしれません、そういったことを避けるために、本文そのものはできるだけ簡潔にした上で、詳細なことは添付資料なり、あるいはウェブ等を利用して掲載することもあります、別の資料で解説するという方向ではどうかと思ひます。というのは、最初から全部きちっとやってしまいますと、その部分でもう読んでいただきた方にも読まれずに捨てられてしまう、飽きられてしまうということもあるかと思ひますので、本文そのものはできるだけ簡潔にし、もっと詳しく知りたい方はさらにこっちを見てくれ、ここに載っていますというような方法で誘導して理解を得る。そういった方針で作るのはどうかと考えております。そのような方針に基づき、構成と記載内容についての案を事務局と相談したのが4番でございます。まず、その資料につきましては、この資料を何のために作ったのか、どういう意図で作ったという趣旨説明が必要でございますが、やはりこの部分を理解していただかないことには読んでいただけないことになってしまいますので、この資料はこういったことを検討したのですが、それについてはこういうリニューアルですよ、こういう必要なことですよということを訴求対象者の理解を得ていきたいと思ひます。それから文章は、報告書のようにただこう並べるだけではなく、箇条書きにする、あるいはその強調する色を変える、それからレイアウトなども工夫して、皆様が興味を持って、読んでいただけるようなものにしていくと思ひます。そもそも論ですけれども、皆さんは当然のことですが、シミュレーションのことはよくご存知だと思いますが、一般の方は、シミュレーションとはどんなものかというのをご理解いただけてない方、あるいはよくわからないという方もいるかと思ひます。ですから、このところはまずご理解いただけないと、そもそもこの資料の意味がわからなくなってしまうので、シミュレーションというのはどういうものかということもまず理解してもらおうということも資料に盛り込まなければなりません。想定条件が変わればこのように変わるということが当たり前だと分かってくるので、そこを理解いただくということが最初かなと思ひております。次ページ以降に記載した内容案は、こんなことを書いてはどうかと思ひていますが、これ以降は、昨年度及び一昨年度の報告書の抜粋でございます。その抜粋した内容を、このように記載していきたいと、順次ご説明させていただきますが、まず、この資料を作った目的というのは、もし事故が発生して放射性物質が放出された場合、どのように広がるかということは、避難対象区域を評価するために非常に重要なものです。それはご理解いただけると思ひます。その放射性物質の拡散というのは、気象条件によって、あるいは事故の状況によって変化してきます。これを検証するためにはコンピュータを利用した予測が必要です。それがシミュレーションです。そのシミュレーショ

ンについては、さらに詳しく記載する必要があると思います。シミュレーションは、＜日本原電＞様が実施して、その評価した結果について、茨城県が報告を受け、それを検証委員会にて、データの検証を実施したということです。このシミュレーションについては、対象範囲が最大となるように厳しい条件で行いました。それは仮想的な条件で計算したものです。ですから、設定条件によって結果が変わる不確かさ、これがデータの変動とのことです。これがありますということもここでしっかりお伝えしておかないと、結果が後でどうなったということで、ご理解の誤解を生んでしまうこともあると思いますので、こういったところも、この最初の部分でしっかりと説明していく必要があります。さらに、仮想的な条件とか追加条件を、昨年度より厳しい条件で評価しておりますので、その辺なども実施しましたと表記し、通り一遍ではなく、何度も検証していますということを伝えることが必要となります。その結果によって、避難対象区域の実効性の検証の方を進めていくための資料ですということを最初の趣旨説明でお話してはどうかと。2番以降が実際に令和4年度あるいは令和5年度の検証委員会での結果とか、それを簡潔に説明していくものです。まずどういったことを検証したのか。それからこういった事情を持って検証しましたということをお伝えすることが必要です。内容については、できるだけ数字とかグラフ、数式などそういったものを使わず、一般の方でもご理解できるような内容が必要となります。

まず、この検証事項そのものが対象区域において最大となる事故や災害を想定したものであること。その過程が妥当かどうかということを検証してきたということ。そのことはどれくらいシミュレーションに影響するかということが重要で、色々なことを検証した結果、この結果が出ているということ。検証コードについては、去年度の報告書ありますが、4つあって、まずは事故の想定シナリオ。これは事故が進展して放射性物質が放出されるときにどのような過程で想定したのか。それから、そのソースタームについては、施設内に放射される可能性のある放射性物質の量とか種類などがどういった過程で想定したのか。それから気象条件は拡散に影響するので、風向とか降雨などどういった過程でやったかということを検証しました。その検証が、過程が妥当かどうかということも含めて検証しました。さらに今回、解析コードが信頼されたものであるかについても検証しました。最後に、シミュレーションして得られた空間線量率を多様化し、各地区での線量が妥当かどうかということも実施しました。ということを順次ご説明して、こういった形の順番で検証しましたということにしては、さらにこれを通り一遍ではなく、この条件についてはもう少しこうした方がいい、これをこうやるとどうなるかというシミュレーションとしていくつか項目を変更したり追加したりして検証したということもお伝えして、この検証の過程というものを明らかにしていくということ。3番が、以降がそれによって得られた検証の結果であります。これは報告書の内容だと思えますけれども、それをわかりやすく簡潔に説明するところです。基本といたしましては、この避難対象区域が災害となるようなシミュレーションの結果としては妥当だということをお伝えし、それは令和4年度、令和5年度の検証結果の内容を抜粋して記載するということになります。

最初にもお話ししましたが、図とかグラフ、これをどの程度簡略化して掲載するかということも検討が必要です。先ほどの項目でお話ししました空間線量の評価、これを出すためのシミュレーションでありますので、この検証結果の中で例えば気象条件とかそのソースタームとかと同等ではなく別個として、結果こうなったということで、最も一般の皆さんが知りたいのはここだと思います。ここを別個として掲げるといっても必要なのか、この辺は委員の皆様のご意見なども伺いたいと。それから①から⑥につきましては、令和5年度報告書ですけれども、ソースタームの過程ですとか自己条件の過程については妥当だと検証したと。シナリオについても、国の規制の基準で想定されるよりも相当厳しい条件であって、さらに厳しい条件を加えて追加評価し、出したということなのでシナリオとしては大丈夫ということになります。ソースタームとしましても、まさに同じように、国の審査の条件をそれよりもさらに厳しい条件を想定しているということ。2ページになりますが、気象条

件につきましても色々な条件が考慮されている。さらに追加条件として 1 年間の条件の中からランダムに選定したものをやっているとかそういったことも評価したということです。この不確かさは難しい問題ですけれども、それを理解していただくために一言言わないといけないかと思いますので、現実的、物理的に起こりにくい仮想的な条件も含めて実施したと。それでも評価結果は全体として整合しているということにして、具体的にファクターの問題とかそういったところを言うと余計混乱してしまいますので、大まかな概要についてこういうことだということでご理解いただけるぐらいの対応で良いのではと考えています。解析コードにつきましては、R-Cubic、OSCAAR は国際的にも使われておりますし、原子力規制委員会などでも使われている。そういった信頼できる機関に使われているところと同じ程度のプログラムということなので、これを使うことは妥当だと、いうことを示してはどうかと。最後に、空間線量率の評価ですけど、これは結論として結構という形で出してもいいのかもしれませんが、この線量率の評価そのものは妥当であったと。それから、気象条件とかソーラータームなどにより、この条件がどういった評価に影響するかということも把握できました。色々な気象条件、仮想条件、それから放出の仮想条件がありますが、それによって避難範囲が狭くなったりひどくなったりします。それはこういったどの要素がどういう風に影響するかということをしきりと把握した上で、状況によって評価されていくことになります。ということを行っている。ただ、気象条件が仮想的だったということをしきりで一言言ってもいいのかもしれませんが、とにかく状況によって変わってくる、でもそれによってやった計算は正確で、でも変わるということをお伝えしておいて、きちんとこの評価をし、シミュレーションもやり、こういった結果が出ましたということを示せば、資料としてご理解いただけるものになるのではないかと考えております。ご説明は以上です。

<事務局>

ありがとうございます。初めて見た方もいると思いますが、このような構成ではありますが、ここまではださなくても良いのではとか、ここはこうの方が良いというようなご意見等があれば、いただきたいと思います。持ち帰っていただいて、ご意見をいただくことも可能です。それから日本原電の資料を組み込まなくてはならない部分が数多くでくると思います。そういうところも、どのように示していくかご意見が多々あると思います。それと、難しい部分をどれだけ理解しやすく簡潔にできるかということも当然でくると思います。放射状に線が入っているものを、全部取ってしまうとか、そういうことを含めて、一般の方が見ても、せめて首長様が理解できるぐらいの資料にしていきたいと思っている次第です。委員の先生方からは、こういうものを入れたおいた方が良いのではないかと、ああいうもの入れといた方が良いのではないかとというのが当然出てくると思いますが、ご自由にご意見いただければと思います。

<委員>

〇〇です。県民への周知資料を作成するということですけども、まず、最初に何ページぐらいの資料になりますか。それは最初に決めておいた方が、方向性がつくかと思います。

<事務局>

6 ページ前後かと思っています。盛り沢山にしてみると量が多くなってしまうのと、細かい資料になってしまうとどうしても見ない人が多くなる傾向にあります。インパクトのある絵を入れながら、わかりやすい文体で作成するイメージです。

<茨城県>

原子力安全対策課の〇〇と申します。行政的には6ページぐらいで違和感はないのですが、県民に見せるとなるとさらにそれを抜粋して、せいぜい2枚です。組長によっては1枚でわかるようにという先生がいるので、例えば結論と大まかな理由だけで1枚にするのがないと、6枚は見ないと思います。その上で1枚ないし2枚のものと、6枚と、きちんとした方がいいやつみたいなイメージかと思います。また、2枚目の④のところ、ここは前回いただいているような報告書でも、不確かさというところ、これ組長に引っかけたみたいで、妥当なのに不確かというのは多分結びついていない。おそらく、シミュレーションだから設定条件によって結果が変わることは当然ありますよ。けれども、今回は避難、一時移転の対象範囲が最大規模となるよう厳しい設定をして、仮想的な設定をして計算したものであるというような言い方ならまだわかりますが、今回の④に書いてあるように、従ってのように結論になっているような書き方はやめてほしい。設定条件が変われば当然変わるのがシミュレーションなのでしょうけども、今回は最大規模となるよう厳しい仮想的な設定をしていますという言い方にしてほしいのが一件。あと、同じところの⑥のところは、県の都合ですけど避難計画の実効性の検証ももう1つの検証委員会やっているのですが、そこで引っかけられているので、ここは書き方が変わると思います。さっきの前に戻って、④との関係でおそらく連動するのは4ページの(4)のその不確かさがどうのこうのという書き方がありますが、書き方を考えないと、組長さんが食いついてきて非常に紛糾したりしたこともあるので、書き方を変えるのか。そもそも最初にシミュレーションだから、当然設定条件が変われば変動することはあり得るけど、今回はこういう設定でこういう風にやりますというのだけ言っていれば、県民向けの資料にはわざわざ不確かさなど正確に書かなくてもいいのかなというところです。あともう1点が3枚目になります。(3)の検証結果の下の方の①の空間線量の評価のところ、概ね妥当という、概ねが必要なのかどうか。先ほどの議論でもあったのですが、概ねと言うと、住民が聞くとダメな部分もあって、大体良いみたいな言い方にとらえてしまうので、どうしてもそこが外せないのであれば、注釈も必要だと思うし、統計学的に大体合っているというのは、県民からすると合っているということと言い切ってもらった方がいいのかなと思います。気づいたところは以上です。

<事務局>

ありがとうございます。まさにそういうところだと思います。県民目線でというところだと思うので、やはりどっちつかずのような表現というのは非常に難しいところなので、白黒つけたような表現の方がいいのかなとは思いますが、もちろん作り方によっては、例えば〇〇様のおっしゃられたように、ざっくり分かりやすい資料が1、2枚あって、別のところに飛べばもっと詳しく書いてあるというようなやり方もあるだろうという思っています。それでより専門的に見たいという人はそっちに飛んでもらうというようなやり方。まずは最初の2枚組のインパクトがある、誰もが分かり易いという印象の資料が重要です。〇〇委員も同じ考えで、3段構えのような構成のものを考えております。

<委員>

おっしゃるように不確かさというような、こういった言葉に皆様は反応してしまいますので、結局仮想的なものだよ、だからその条件ではこうだということを言えば理解していただけると思うので、そういった言葉は省くような形で考えてよろしいかと思います。

<委員>

今の話で1年目から言っていますけど、要するに2020年の気象データを用いて評価したら38ですよということになっているだけで、誰かからじゃあ2020年度でなかったらどうだとなったら、こ

それはそしたら色々な検討しますかということだから、県民には 22 年度の気象データで R-Cubic という信頼のおけるコードを用いて評価したら最大は 38 でしたという風には間違っていない。

<事務局>

そうですね。表現の仕方によって全く違う捉え方できる。確かにそういう表現の仕方であれば問題は無いかもしれません。

<日本原電>

日本原電の〇〇です。先ほど課長から、おっしゃられたこと、全く同じことを思いました。おそらく県民にとすると、2 枚よりも、1 枚でぱっと見てわかるようなものだろうと私はイメージしました。ぱっと見てイメージするときに、2000 何年度のデータ使って R-Cubic をと、それがメインではなくて、安全対策をたくさんやっているけれども、その安全対策に全然期待しないで、ものすごく保守的な条件で放射性物質を放出すると。それによって避難範囲をコードを使って範囲を求めました。ですから、ものすごく至誠を組んだものになっていますというのがまず大きくあって、その中で、検証委員会においては、とはいえ気象条件によっても、不確かさっていうよりも条件がたくさんあるので、その辺が色々な条件を振ったとしてもそういう補正が確保されるのかといったあたりを検証してきましたというのがざっくりとしたサマリーであって、先ほどおっしゃられた通り、そこからここに書いてあるような細かい専門的な話に近いことっていうのは、それを補足するような形で肉付けしていった方が県民の方にも、最初の 1 枚だけ見れば、なんとなくわかった気にもなりますし、細かく見たい人には、後ろの方を見れば、納得して理解した気にもなるような、そんな資料になるのかなという風に思いました。

<事務局>

ありがとうございます。茨城県に確認したいのですが、この検証委員会議事録はは、全てホームページに掲載されますか。

<茨城県>

はい、おっしゃる通りです。1 点補足させていただきますと、2022 年度から 3 年ぐらい経って検証していただいて、この結果については全てホームページ等に公開する前提で、最終だけどそっち見ていただければいい。そのサマリーはこの今回のペーパーでお示しして、必要であればもうこっち見てくださいと誘導してもいいかなと思うのですが、そこは多分正確な理解に繋がるとしますので、そんな形にしていいただければありがたい。

<事務局>

ありがとうございます。我々としては 3 層構成ぐらいでやってこうかという風に思っただけで、まずは 1 枚か 2 枚で、次にそれに対する用語の解説と、そういうものを含めて色々載せる。最終的には県のホームページに検証委員会の具体的なものが載っていますよというのがわかるようなものであると、こんなのやっているのかというのがわかるのかと思っています。茨城県が言われている、第 1 層部分が、わかりやすいものであるのが 1 番重要かと思っています。そのような作り方については、〇〇委員、どうでしょうか。

<委員>

はい、おっしゃる通りだと思います。やっぱり 1 枚であるというのが理想ですので、それを目指し

たいと思いますけど、やはりやっぱり図とか、その辺もあるかと思いますので、表にあったものの説明が、裏の図で見ればもっとわかるとか、そこにちょっとした用語解説を作り、それをちょっと膨らませた形で段階的なもので作ると。

<委員>

県の方がいらっしゃるので、ちょっと僭越ですけども。私の家に最近、これ（原子力広報いばらき 全県版第9号）が配られました。これ見ると、茨城県の原子力災害対応訓練を実施しましたとか、災害の避難計画に係る検証委員会を開催しましたとあります。この中では原子力第2発電所放射線物質の拡散シミュレーション結果を活用し、となっています。ここに詳しくはホームページをご覧くださいと書いてあります。ですから、こういう形として最終的に県民の方に出されるのかなと思います。

<委員>

これってどこの地区で38になったっていうのが非常に微妙でした。でないとそれで確定すると一人歩きになる。他の市町村から、そういう計算しかしてないとなるので、そこをどういう風な表現するのか。本来避難だったらそっちの市町村が高くなるようなところ、気象状況を計算して避難という場合は、今回の委員会は最大なる面積ということでどこになるかとは言っていないので、それについてはこの委員会では追求していないが、ある気象だったら38だと。それを、方向はこっち側だというのを出すとなると、そこが非常に微妙なところなので、どうされるかなっていう。

<茨城県>

今度シミュレーションを放出した時に、まさにそういう話が市町村もありまして、やっぱり防災の関係から言うと、いわゆるハザードマップ的なイメージを持たれたらしいです。必ず時間が起さればこういう結果が生じると、固定ではこうなるとは思われたくないっていうのは行政の思いもありまして、それをどのように表現するかは知恵の絞りどころかと思っています。

<事務局>

確かにその図が出ると、その地域の人たちが不安に思うというのは当然だと思うので、いくら想定であってもそのところはかなり神経を使いながら出さないといけない状況ではあると思われます。言葉だけでこう書いてありますって言っても理解できないかと思います。まずは、視覚からの理解が最も重要で、〇〇委員が言われるように、その表現については誤解が生じないようにする必要があります。皆様とご相談させていただきながら作成していきます。その他、何かご意見等ございますか。

<議長>

不確かさという言葉があるのですが、やはりこのことをどう考えるかだと思います。〇〇さんの作った資料は分かり易いのですが、2ページ目の「従って、諸条件によって結果が変わる不確かさ」とあり、これはまずいかも知れません。どうしてかというと、その前段で激しめで評価したので、それで不確かさが入るという流れに読めます。もっと言うと学術的からどこから始めるかの観点からはここは非常に悩ましいところがありますが、そもそもシミュレーションを実施する場合はその時点ではじめから不確かさが入るとの考えもあります。資料で、不確かさは重要なパラメータを抽出してきたためとの表現は数カ所出ていますが、雨とか風とかの気象パラメータをどのようなストーリーから入力したのかの前提から説明するとなると、不確かさの説明はちょっと手ごわいかも知れません。事務局が言った通り、2ページ、3ページ目の他の不確かさの記載には、このような細かいコメントは該当しないかも知れません。

また、更に杞憂かも知れませんが、学術的に本当に詳しい方になったら、最先端の ASME（（注）米国機械学会）の不確かさの定義から考えて欲しいと言われても困ります。地元には専門家である JAEA の人もいるから本当に詳しい方がいます。説明の対象者を想定するなどと、前提を検討することもあるのでしょうか。自治体の関係者、住民では説明が困難なところもあるかも知れませんが、常識的にそういうところで作戦を考えつつというところかと思います。（ただいま回覧して頂いた県の広報資料である）〇〇委員の資料を拝見させてもらうと、避難対象者が発生した場合に備えると、あります。これ何を言っているかと言うと、〇〇委員がさっきおっしゃられたとおり、あくまでも仮想ですとの立場が大きくて、これは〇〇委員もおっしゃる通りでしょうか。と言うのは、最初にこの国の審査などと同じであれば確か、20 マイクロ超えず、ここがポイントかなとも考えます。あえて評価したためであり、この点をうまく書くのは大変でしょうが、それにより〇〇委員が言う 38 点に至るのでしょうか。この資料を見ていると 3 割とも書いてあるけど、ファクター2 との関係もありそうです。この辺も考えながら、対象者は常識のある技術もちょっと詳しくて善良な方などと、説明する対象者の想定することもありそうかと思っています。

<事務局>

意見有難うございます。まずは第1層目の県民に対して何を周知するのか、これによってだいぶ違うと思います。これを作成した上で、第2層目の詳しいところに想定問答集とかを入れていき、第3層目は、委員会の報告書または結論というものが、茨城県のホームページに掲載されているという形では如何でしょうか。〇〇委員と事務局で本日のご意見を基に素案を作成してみます。それを基に第4回委員会で、ご議論いただくことといたします。その後は、詳細図等、日本原電にもご協力いただいて、そのうえで、メールまたは、個別打合せにて進めていくことといたします。3月の初めぐらいには報告をしたいと思っています。〇〇委員及び事務局まとめて進めさせていただきます。

<委員>

R-Cubic を周知じゃなくて、資料の3番目になる R-Cubic を選定したのは、面積を求めるのは現状これしかなかったところでしたとかなないと、OSCAAR で最初からやらなかったのかみたなものに対応すると。その R-Cubic を選んだ理由っていうのは、面積を出すというのがあったから、コードとしてそういう機能を優先している健全な R-Cubic、と他のコードを検証した場合にあって、この委員会の中で OSCAAR とやったとするか、もうすでに OSCAAR とは合っているという風にするのかはさておき、そういうコードとしての実証できましたっていう結果にしておかないと、最初に OSCAAR から始めろとか、あるいは SPEEDI から始めろと言われる可能性もあるから、そこのこれを選んだ理由っていうのはきっちり書いていただきたい。表面ではなくて後ろにと思います。

<日本原電>

日本原電の〇〇です。そちらの方向で理由を準備したいと思いますが、過去の検証委員会でその辺りどのように説明したかを確認した上で考えさせていただきます。

<事務局>

ご意見その他ありますか。なければこれで第3回検証委員会は終了いたします。もし何か気づいた点等がございましたら、事務局宛メールにてお送りいただければ反映させていただきます。また、本日の件については、欠席された〇〇議長と〇〇委員には事務局から報告いたします。お忙しいところありがとうございました。